

## 第4章 道路景観形成時における合意形成の事例

本章では、第3章までに述べた内容を深くまた具体的に理解するため、道路景観形成時における合意形成の事例を示す。ここでは以下の3事例に対し、事例の概要、合意形成経過、合意形成の基本ステップにおける対応内容等について示す。合意形成の基本ステップにおける対応内容としては、「意見交換等の対象が道路景観であるが故に対応すべき3つの観点」に加えて、それ以外の部分（一般的な道路事業の合意形成に関わる部分）についても述べる。

- ・ 事例1（既設道路の交差点改良時の検討に合わせて、道路景観の検討を進めた事例）
- ・ 事例2（地下鉄整備による道路改築時の検討に合わせて、道路景観の検討を進めた事例）
- ・ 事例3（バイパス整備時の検討に合わせて、道路景観の検討を進めた事例）

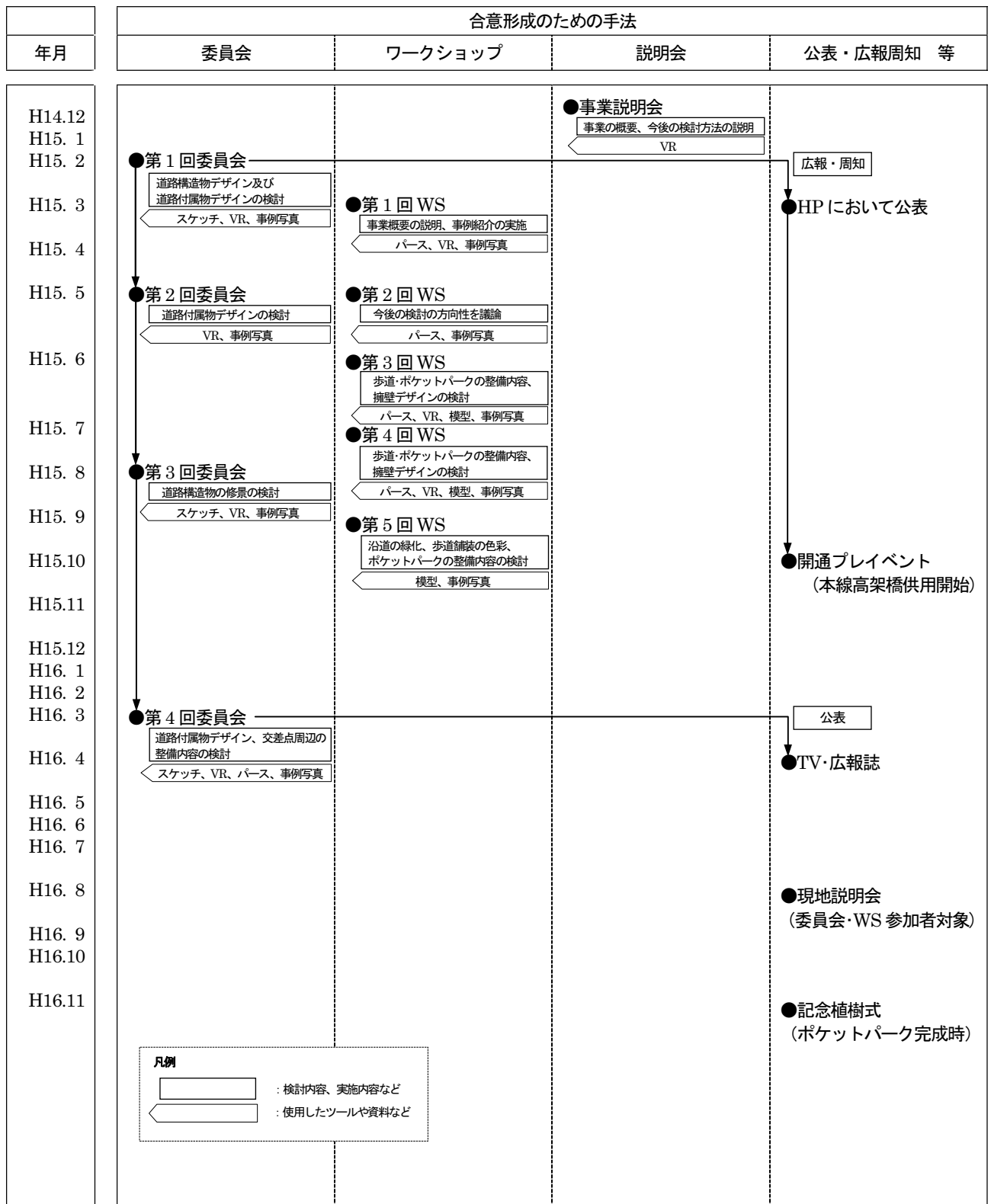
ここで示す事例はすべて、我が国において既に「道路景観形成時における合意形成」として検討が進められたものであり、当時の状況等を個別にヒアリングしてとりまとめたものである。しかしながら、本手引きで示す「3つの観点」や「合意形成の基本ステップ」についての理解を深めることを意図してまとめるに際し、ヒアリングの結果に対して若干加筆した点もある。そのため、これら事例を参照する場合には、部分的にそのような加筆があり、ここで記述してあることすべてが実際の状況と完全に一致したものではないことに留意して戴きたい。

4.1 事例1（既存道路の交差展開領事の検討に合わせて、道路景観の検討を進めた事例）

(1) 概要

<b>事業の種類</b>		一般国道の交差点改良事業		
<b>事業段階</b>		設計・施工段階		
<b>沿道特性</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>対象地は、地方都市の主要な国道の交差点であり、市街地の外郭に位置する。</li> <li>直近に市のランドマークとなる山が位置している。</li> </ul>		
<b>事業概要</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>県内最大の渋滞ポイントであったため、都市内交通の円滑化、主要幹線道路の機能回復、ゆとりある道路空間の実現を目的として、立体化事業を実施した。</li> </ul>		
<b>合意形成の概要</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>交差点立体化に伴う高架橋梁や擁壁の出現が、周辺の道路景観、都市景観に影響を与えることが予想されたため、当該事業により改変される景観をできるだけ良好に保全するとともに、潤いある沿道空間の創出を図ること等を目的とした道路空間整備、景観整備の方策を検討した。</li> </ul>		
<b>合意形成の体制</b>				
<b>合意形成のための手法</b>		名称	構成等	人数
説明会		①事業説明会	・ 沿道地区住民	不明
委員会		②景観検討委員会	・ 行政 (国、県、市、県警、警察署) ・ 地区代表者 ・ 商店街代表者	10名
ワークショップ		③景観を考えるワークショップ	・ 対象地区内に1年以上在住 (在勤、在学) する18歳以上の人。	13名
3つの観点	<b>道路景観の専門家の参画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元で土木・建築デザインを行う建築家が委員またはアドバイザーとして参画し、地域の景観資源に対する解説や、景観資源を踏まえた色彩やデザイン等の提案・助言、市民からの意見の反映方法の検討などを行った。</li> </ul>		
	<b>視覚化ツールの活用</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スケッチやパース、VR、模型を用いて検討を行った。設計データが利用できたため、初期段階から概略VRを活用し、修正案の提示や公表用として精細VRを用いた。</li> </ul>		
	<b>道路景観保全に向けた基盤づくり</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークショップでは市民の中からもなるべく若い人の参加を促すこととした。また、開通イベントや現地見学会、記念植樹式などのイベントを行い、道路景観に対する市民の意識を高めた。</li> </ul>		
<b>事業後の状況</b>				
		<p>交差点立体化による周辺の道路景観に与える影響について検討を行った。</p>		
		<p>潤いのある沿道空間の創出のため、ポケットパーク等の検討を行った。</p>		

(2) 合意形成経過



### (3) 合意形成の基本ステップと対応内容

#### ①ステップ1：合意形成に向けての調整

##### ステップ1-1：法令等・他プロジェクト・前事業段階での決定事項などの周辺事情の共通認識

- ・ 対象となる現場の交差点では、すでに交差点立体化のための高架橋工事が進められているため、その事業の進捗状況等について確認を行い関係者間で認識を共通にした。

##### ステップ1-2：合意形成を通じて得る成果とその反映方針等の共通認識

- ・ 合意形成を通じて、道路構造物（桁・橋脚・橋台・擁壁）のデザイン、道路付属物（照明灯・遮音壁・防護柵・標識）のデザイン、沿道施設（街路樹・歩道舗装・交差点周辺空間）の構成等を検討することとした。
- ・ 検討項目は「委員会において方向性を定めるもの」、「委員会での検討の進捗を報告し、市民の意見を伺うもの」、「今後の検討事項について紹介するもの」の三つに分けて議論を進めることとした。なお、市民の意見を伺うものとしては、ポケットパークや植栽等の沿道施設を挙げ意見収集を行うこととした。
- ・ 合意形成のスケジュールに関しては、工事のスケジュールを勘案し、14年度内に道路構造物（桁パネル形状・色彩、橋脚、橋台）、道路付属物（中分ガードレール、照明灯、桁下照明）について検討を終えることを目標とし、その他の事項については、15年度末までに検討を終えることとした。

##### ステップ1-3：専門家や視覚化ツールの活用、道路景観保全に向けた活動等の共通認識

- ・ 下記の3点について事務所・県・市・警察等の関係機関で共通認識を図った。
  - － 地域景観に配慮した道路景観の検討、道路事業及び道路景観に関する専門的知識や検討内容の市民への説明、及び市民からの意見の反映方法の検討が出来る専門家の参画が必要であること。
  - － 合意形成の結論を広く一般に公表するために、わかりやすく誤解を招かないよう視覚化ツールを活用し事務所ホームページに掲載すること。
  - － 一般市民の参加により、道路景観形成への意識と市民の道路への愛着心を向上させることが道路景観保全に向けて必要であること、
- ・ 県警、市（道路維持課、道路管理課）、事務所、受注者による関係機関協議を開催し、交差点改良後の側道利用計画について協議を行った。

#### ②ステップ2：合意形成の実施に向けた準備

##### ステップ2-1：合意形成の対象者（関係者）の想定・設定

- ・ 合意形成の対象者は交差点周辺の市民とした。
- ・ ワークショップでは、市民の中からなるべく若い人の参加を促すこととした。

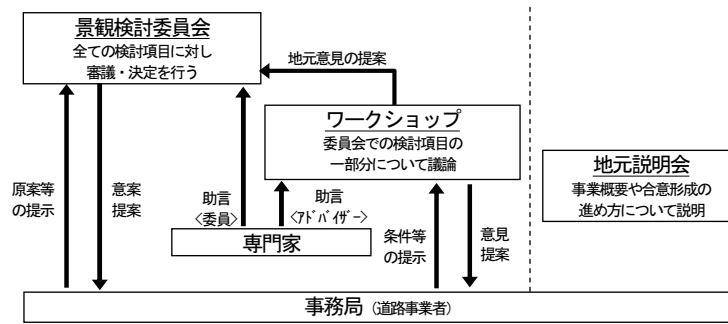
##### ステップ2-2：合意形成のための手法の選定

- ・ 行政からの一方的な情報提供とならないよう、行政および市民の代表からなる「委員会」に加え、地域に

住む市民の積極的な参加を促す目的で「ワークショップ」を行うこととした。また、これらの手法にて合意形成を実施することや事業概要を説明するための「説明会」を事前に実施した

### ステップ 2-3：合意形成の体制の設定、参加する市民の募集

- ・ 委員会の参加者は、行政 6 名、地区代表者 1 名、商店街代表者 1 名、有識者 1 名で構成することとした。委員長は、事務所副所長が務め、行政側は、国、県、市、県警、所轄警察署の各代表者にて構成した。
- ・ ワークショップの参加者は、交差点周辺の対象地区内に 1 年以上在住する 18 歳以上を対象とし、地区の景観に関するレポートを公募し、その内容および年齢、性別等のバランスを考慮して選定した。
- ・ 景観に関する専門家は「美しい国土づくりアドバイザー制度」及び「県景観形成検討委員会」のメンバーを考慮し、両方に関与する有識者（地元建築家／土木・建築デザイン）を選定し、ワークショップではアドバイザー、委員会では委員として参画させた。



### ステップ 2-4：合意形成の結論の決定方法の設定

- ・ 委員会は、全ての検討項目についての審議及び決定を行う組織として位置づけられ、一方、ワークショップは、委員会で検討される項目の一部（沿道施設）について地域住民による意見交換を行い、その結果を委員会へ報告するものとしている。

## ③ステップ 3：合意形成の実施

### ステップ 3-1：意見交換・討議のための材料（資料等）の収集・整理

- ・ 事業段階が設計・施工段階であり、設計データを用いた視覚化ツールを作成できたことから、検討初期の段階（整備イメージの把握の段階）から概略 VR を使用した。また、具体的な景観検討の内容が、大きな構造物を対象とせず、付属物が主体であったことから、修景案についても VR を用いることとした。
- ・ VR を活用することで検討の進捗に応じて具体的な表現が可能となるため、初期段階に作成した概略 VR のデータを用い、精細 VR 作成し修正案の検討や公表に活用した。
- ・ ポケットパークのデザインにおいては、パース、模型を活用して具体的な検討を行った。
- ・ 検討の全体を通して、提案内容に対する出来上がりのイメージの共有を図るため、各地の整備事例の写真を用いることとした。

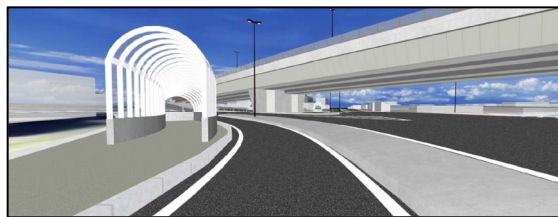
### ステップ 3-2：意見交換・討議、意見等の集約・とりまとめ

#### ○道路景観の専門家による解説、アドバイス

- ・ 橋梁桁化粧板について、自然との調和を図るための形状など、地域景観を踏まえた提案を行った（第1回委員会）。
- ・ 化粧板の設置に伴う西日の影響等についての質問に対して、専門的知見から、これら影響への対処方法や、道路景観への反映も配慮した素材や色彩についての考えを専門的に解説した（第2回委員会）。
- ・ 橋梁デザインの提案に対し、周辺の山並みとの調和を考慮すべきであることを、専門的知見から判断し助言を行った（第3回委員会）。
- ・ ポケットパークデザインに関して、具体的なデザインの提案と、その提案内容についての解説を行った（第4回委員会）。
- ・ 地域の景観資源が、景観検討の上で重要であることを分かりやすく解説した（第1回ワークショップ）。
- ・ 橋の桁化粧板の色彩については、周辺の重要な景観資源の見せ方など専門的知見からの色彩の使い方について助言を行った（第2回ワークショップ）。
- ・ ポケットパークのデザインに関する議論では、模型を用いた事務局の提案に対する解説や、市民から出された意見の反映方法の検討をおこなった（第3回、第4回ワークショップ）。
- ・ 市民の意見を集約し、専門的知見からの判断によりワークショップの結論として取りまとめを行った（第5回ワークショップ）。

#### ○視覚化ツールの活用

- ・ 道路構造物のデザインに関する基本的な方針設定を行うためのイメージ共有を目的に、概略のVRを活用した（第1回委員会、第1回ワークショップ）。



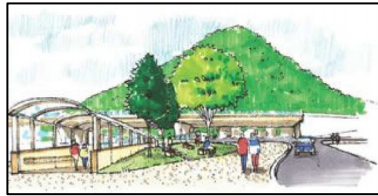
概略 VR

- ・ 道路構造物の基本案の提示及び修正案の提示を行うため概略VRのデータを用いて精細VRを作成し、活用した（第2回委員会）。



精細 VR

- ・ ポケットパークの整備方針の検討を行うにあたっては、参加者のイメージの共有を図るためにパースを活用するとともに、作業をしながら整備案を検討するため模型を活用した（第3回委員会、第3回ワークショップ）。



パース



模型

### ステップ 3-3：意見交換等の経過・結果の情報公開、再意見収集

- ・ 委員会及びワークショップの結果報告は、事務所 HP により公表した。また、先行して整備が進められた本線高架橋部の開通に伴い、イベントを開催した。

### ステップ 3-4：討議の結論（合意形成の成果）の導出

- ・ ワークショップでは、専門家が参加者の意見の総括と最終取りまとめ案の提示を行い、参加者の意向を確認した。また、ワークショップの検討結果は委員会で審議され最終的な決定を行うという方針を示した。なお、ワークショップでの合意事項は、沿道の緑化、歩道舗装の色彩、交差点周辺のポケットパーク整備についてであった。
- ・ 委員会では、ワークショップでの検討結果を踏まえた事務局の提案に対し、各委員の意見の一致により結論を得た。ただし、一部結論が得られなかった検討事項については事務所へ一任とした。

## ④ステップ 4：結果の公表

### ステップ 4-1：合意形成を通じて得た結論の公表

- ・ 合意形成を通じて得た結論は、合意形成の検討時に用いたパース、及び VR を基にした静止画像を活用して、HP や市の広報誌、TV に公表した。
- ・ ワークショップでの結論が十分に確認されていなかったこともあり、結論の公表後、ポケットパークの施工段階で委員会およびワークショップメンバーを対象とした現地説明を実施した。

## ⑤ステップ 5：市民参加の継続

### ステップ 5-1：継続的な議論が行える場の用意

- ・ ポケットパークの完成時に実施された記念植樹式において、自治会に対し、景観整備の概要説明と管理・清掃活動の協働実施についての確認、清掃道具の贈呈を行った。